

都市計画マスターplanに基づく立石駅周辺地区の街づくりの方向性について

資料 1

■上位計画における立石駅周辺地区の位置付け

葛飾区都市計画マスターplan(葛飾区)

- ・広域行政拠点として、広域的な文化・交流・行政機能の充実、諸機能の連携強化を図るとともに、安全・快適に移動できる交通環境づくりを進める。
- ・立石駅周辺では再開発を進め、市街地の防災性の向上とともに、地域に根ざした生活サービス機能をはじめ、公益サービス・交流・交通機能の充実を図り、区の中心部にふさわしい街並み形成を図る。
- ・区の顔にふさわしい魅力・活力が感じられる景観形成を図るため、土地の高度利用を図りながら、本区のシンボルやランドマークとなるよう、景観に配慮した街並みの形成を図る。

■街づくりコンセプト(葛飾区都市計画マスターplanにおける立石・四つ木地域の将来像)

区の中心部として活気にあふれ、文化と暮らしかなりわいが共生する、安全安心に住み続けられるまち

■街づくり整備方針

京成押上線連続立体交差事業の推進

- ⇒連続立体交差事業により、踏切を解消して南北の回遊性を高めることにより、地域の活性化を図る。

防災性の向上

- ⇒再開発事業等の整備手法により、狭あい道路の解消を図ると共に、災害時に避難者の一時受け入れなどで有効に機能するオープンスペース(交通広場等)を南北で確保していく。

土地利用の共同化・高度化の促進

- ⇒再開発事業等の整備手法により、多様な世代がともに暮らせる堅牢な都市型住宅を整備することで、良好な市街地環境を形成する。

駐車・駐輪場等の整備

- ⇒駐車・駐輪場等を整備することで、放置自転車や違法駐車のない安心・快適な交通環境を確保する。

活気と賑わいの形成

- ⇒本区の顔となる広域行政拠点にふさわしい賑わい軸を整備することで、人々が集い憩うことができる個性あふれる交流空間を創出する。

総合庁舎を中心とした区民サービス機能の充実

- ⇒平成26年10月に葛飾区総合庁舎整備基本構想が策定され立石駅北口地区が最優先候補地として位置付けられた。

駅前という交通利便性を最大限に活かし、総合庁舎を中心とした行政サービス機能の充実を図る。また、震災時等の災害対策本部として、必要な機能の確保を図る。

防災街区整備方針(東京都)

- ・老朽木造建築物などの不燃化を進め災害に強い良好な住環境の整備を図るとともに、京成押上線の立体化と共に駅周辺の再開発及び周辺地区の基礎整備により、市街地の安全性の向上を図る。

都市再開発の方針(東京都)

- ・駅周辺の再開発により、商業の活性化を図るとともに、地区内の基礎整備を進め、防災性の向上及び居住環境の改善を図ることにより、災害に強い良好な住宅市街地の整備を促進する。

■地区の将来イメージ

踏切の解消

回遊性の向上

狭あい道路の解消

オープンスペースの確保

良好な住環境の創出

歩行者に配慮した道路

水道みらい

総合庁舎機能

都市型住宅

交通広場としての

拡幅整備

商業機能

交通空間+環境空間

賑わい機能

オーブンスペースとしての

交通空間+環境空間

踏切の解消

京成立石駅

踏切の解消

踏切の解消

奥戸街道

北口地区

南口地区

都市型住宅

商業・賑わい機能

オーブンスペースとしての

交通空間+環境空間

踏切の解消

踏切の解消